

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームゆずの家1号館
(ユニット名)	1号棟
所在地 (県・市町村名)	静岡県富士宮市大岩493-13
記入者名 (管理者)	渡邊京子
記入日	平成 20年 5月 22日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設内に、運営理念と運営方針を掲げている。いつまでもその人らしく住み慣れた地域で、残っている力を最大限に引き出しながら生活できるよう配慮し、支援しています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者が最期まで自分らしく生きられるよう、できないところをお手伝いさせていただくという考え方で、管理者と全ての職員が理念を共有し日々のケアに取り組んでいます。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	利用者の意向を聞き、行きたいところに行けるよう支援しています。そのためには、家族の協力を得ることも必要になります。また、ひとりでそっと外出された時など近所の方に通報してもらえよう協力をお願いしたりしています。運営推進会議では住民代表の委員に、地域の人たちと交流し合える場を作っていたりしました。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所に散歩に出掛けた時は、出会った人に気軽に挨拶を交わしている。お花を分けて頂くこともある。野菜を分けられもったりもする。防災訓練にも参加してもらっている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りには近所の方も参加していただいている。どんど焼きや三世代交流のイベントにも参加させていただいた。又、高校生や民生委員の方のボランティアや地域包括センターからの依頼で軽度知的障害者によるボランティアも受け入れている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地震などの災害時に、当グループホームには看護師が2名いるので近所で怪我をされた方など応急処置ができるように、救急用品や包帯類などを多めにストックしてる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員みんなで協力して作成している。自己評価することにより、できていないことを反省し改善に取り組む姿勢につながっている。外部評価の結果も職員みんなで共有し改善に取り組んでいる。	○	施設内の改善は取り組みやすいが、外部の方が関わってくるに関しては様々な事情があり協力してもらえないなど改善が難しいこともあるが引き続き検討して行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービスの実際や評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ってきた。地域での活動に協力していただいたりサービス向上に活かした。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の職員が運営推進会議以外に来所することは殆どなかった。施設の夏祭りにもお誘いしたが来られなかった。	○	施設ごとの連携は、推進会議以外には、市の職員も忙しそうなので難しい面もある。今後は富士宮市GH連絡会の会議に適宜参加して頂くなどして、連絡会との連携を図って行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、管理者および数名の職員が学ぶ機会があったが、それらを必要としている人の選択が難しい。認知症なのでほとんどの方が的確な判断ができないので、厳密に言えば利用者全ての人が制度利用が必要となる。	○	もっと具体的な事例を勉強したいと思います。料金、手続きの方法、家族への説明のポイント、制度を利用すると何がどう変わるのか、利用者のメリット、家族のメリットなど。自分達が納得できる制度でなければ勧めることはできないため。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員にはいろいろな研修会に参加できる機会を提供し、認知症の介護の基本的な姿勢を学んでもらい、常日頃優しい介護に徹するよう管理者は呼びかけている。身体的な虐待だけでなく、言葉による精神的な苦痛も虐待であることを強く言って聞かせている。冷たい態度や言い方をしたときにはその場で注意するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員的能力や経験に応じて、管理者は研修の内容を決め、職員が勤務内で研修が受けられるよう支援している。また施設内でも適宜研修会を開いている。また働きながら専門職の資格が取れるよう、研修費や受験料など支給している。	○ 開所して7年、長期入所者の身体機能の低下と認知症の進行は避けることはできない。ターミナルケアの課題は多いので、医療的なことの教育に力を入れていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者兼管理者は、富士宮市GH連絡会に随時参加し勉強会や情報交換を行い互いにサービスの向上を目指し活動している。職員も合同行事や交流会には多く参加している。また管理者は静岡県GH連絡協議会の理事をしているため、研修会の企画等を通じて質の向上や同業者交流に取り組んでいる。	○ 芝川・富士宮地区介護保険事業者連絡協議会グループホーム部会において、事例発表会の企画をしている。一般・ケアマネ・他の事業所などにも参加していただき、互いに勉強できる機会を提供していく計画で進めている。当施設でも発表する予定。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦のための職員およびその家族を対象に、ボーリング大会を企画した。同業者の職員の交流会に会費事業所負担で参加してもらった。忘年会や納涼会は毎年行っている。またリゾートホテルの会員権を持ち、職員に利用してもらっている。宿泊しての管理者研修では3名参加し、他のGHのリーダー達との交流を図った。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勉強して資格を取りたい職員に対して、受験対策講座の受講料や受験料を支給している。勤務扱いで研修に多くの職員が参加できるように支援している。今年度は2名の受験補助をし、介護福祉士の試験1名が合格しました。資格を取ると資格手当が支給されます。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の困っていること、不安なこと、求めていることなど、入所時に聞き取りを行い、受け止めるように努力しています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の困っていること、不安なこと、求めていることなど、入所時に聞き取りを行い、受け止めるように努力しています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに管理者が、利用者にとってグループホームでの生活が適切に見極めるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要に応じて、本人がゆずの家を気に入ってくれるまで何回か来て頂いて決めることもあります。家族が直ぐに入所させたいが本人が納得しないときには、入所してからどうしても馴染めないときには直ぐに退所になっても構わないと家族に伝えてあります。入所時は誰でも不安になるが、初めは面会に頻回に来てもらうなど、家族の協力を得ながら少しずつ馴染んでいただいています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方通行のしてあげる介護ではなく、「できることは一緒に何でもしよう」という考えで共同生活しています。利用者も職員も一緒に楽しみ、家事などお互い協力しあっています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	米寿のお祝い、家族と職員全員で外食して祝ったり、温泉旅行に職員と家族も一緒に行き宴会したり、協力し合ってお風呂に入れたり、夏祭りでは、お酒も飲まれたり一緒に楽しんでいます。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居時に本人と家族の関係について聞き取ったり、本人の日頃の言動から家族との関係が分かったりする中で、本人を取り巻く家族の様々な人間関係に対し、本人と家族にとって良いと思うことは会議で話し合うなどして、良い関係を保つための支援をケアプランに取り入れたりしています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも自由に面会ができ、もと住んでいたところの近所の方が尋ねてきたり、教え子が尋ねてきたり、友人が訪ねてきたりしてくれます。また、本人が行きたいところ、お墓参り、親戚の家、行きつけの美容院、神社などできるだけ希望に沿えるよう努力しています。	○	本人が行きたい場所や昔の友人など会いたい人、住んでいたところの近所の方など、もっと多く本人から聞き出し希望に沿えるようにしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の状態が重度化しているため、上手な関わりがお互いにできないことが多くなってきている。職員は利用者の居場所の調整や喧嘩しやすい者同士がなるべく接触しないよう配慮している。また野菜の下ごしらえや、洗濯物たたみなど一緒に行えるようセッティングしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	在宅に戻った方が1人いました。時々電話で様子を聞いたり、相談に乗ったりしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意向や希望が言える方には本人に良く聞くようにしている。分からない方の場合は表情や単発的な発語から本人の気持ちを想像したり、職員間で情報を共有し、毎月のカンファレンスや毎日のショートミーティングにて本人本位の支援を常に検討している	○	年々、身体的にも重度化し、意思の疎通が図りにくい利用者が増えている中、自分に置き換えて考えてみるなどして、重度の人が何を望んでいるのか更に検討をし重ねて行きたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や家族状況など本人に関する情報は入居時や面会時に家族や本人にお尋ねしたり、日常的な会話のなかから拾い上げたりして把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアプラン作成時に一日の活動状況と一日の支援の状況を記録している。毎日の行動は介護記録に書き、その内容は全職員で共有している。変化のあった事柄については勤務交代時の申し送りで口頭で伝えている。全スタッフが把握しなければならない重要なことに関してはノートに記録して全員が目を通すようにサインしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は職員全員でカンファレンスを開き作成している。家族に協力してもらいたいことや許可を得なければならないことなどは、家族の面会時に伺ったり、電話で本人の意向やホーム側の意向を伝え家族の意向を確認して計画に反映させている。家族との話し合いは、個別の受け持ち担当者または管理者が行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに計画の見直しを行っている。見直しの間に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、介護者と話し合い現状に即した新たな計画を随時申し送りノートなどの活用や毎日の記録に記入するなどしている。	○	重度化し日々変化する状態に合わせて、スピーディかつ正確に全スタッフが共有できるような流動的計画がたえられるよう検討して行きたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況を個別に記録している。重要な変更事項や状態の変化は赤線を引いたり、申し送りでも伝えたり、すばやく情報が共有できるように工夫し、職員が交代しても適切なケアが継続して行えるよう工夫している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個人的な買い物の同行や病院受診支援、外食サービス、認定更新の代行申請、入院退院時の移送サービスなど無料で提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	お誕生会や敬老会、クリスマス会など、マジックやフラダンス、銭太鼓、民謡などボランティアに慰問に来ていただいている。防災訓練時には、管轄の消防署の隊員や近隣住民協力の下行った。入居者が一人で外出し行方が分からなくなったときには警察の方に協力していただいた。日頃から近隣の美容院やお店の人には徘徊者の保護の協力をお願いしている。地域の三世代交流イベントにも参加させていただいた		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のデイサービス事業者のご好意で、毎月4～5回、希望者はいろいろな催しに参加させていただいている。職員が2名付き添っていくようにしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働はしていない。	○	必要性に応じて協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の病状や家族の希望、本人希望を考慮しながら、かかりつけ医を決めている。特に家族の希望がないときは、事業所の職員が受診に付き添い、主治医に状態を報告し、より良い医療が受けられるよう支援しています。		



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はひとり一人の誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応はしないよう注意しています。個人情報については通常の記録物はもちろんのこと、薬袋や観察のメモ書きに至るまで破棄するときにはシュレッダーにかけ、入居者の情報が漏洩しないよう注意しています。また職員が外部個人情報を漏らさないよう覚え書に署名をもらっている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ある程度自己決定ができる方は、行きたい所や欲しいもの、食べたいものなど聞いて、買い物に行ったり、外食したりしています。自分から要望が言えない方については、「○○へ行くけど、行きたい？行きたくないですか？」とか「○○と○○どっちが食べたいですか？」とか簡単な説明と選択肢で選んでもらう。家事仕事もやってもらえますか？と何うようにしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴など、「まだいい」と言われれば、また時間を置いて声掛けする。本人のペースは様々。職員の思うようには事が進まないのが認知症のケアだと思っているので、今だめなら後で、それでもだめなら諦めよう。という考え方でおおらかに対応している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	外出時にはお化粧をし、おしゃれして出掛けます。理美容は職員の美容師がパーマやカット、毛染めを無料でしてくれるので、利用者さんからも家族からも大変喜んでいただいています。いつもきれいになっています。行きつけの店に行きたいという希望にはご家族の協力のもと支援しています。寝たきりに近い状態の方でも毎日その人らしい服装に着替えるよう支援しています。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や食事の片付けはひとり一人の能力に応じて職員と一緒にしています。盛り付けは見た目の美しさにも気遣い、お皿にも気を配っています。外食の支援もしています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の希望で晩酌やタバコも日常的に楽しむことはできるようになっている。本人が嫌いで食べられない物は、別のメニューに変更できる。また本人の嚥下や咀嚼能力に応じて副食を刻んだりしている。重度の方には流動食なども提供している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	トイレを探してる様子が伺えたときには直ぐにトイレへ誘導している。ひとりでトイレに行けなくなってもできる限り気持ちよくトイレで排泄できるように時間で誘導したりしている。時に失禁する方もできる限りオムツに頼らないよう夜間のみ使用し、日中はトイレ誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日全員は入れます。基本的には本人が希望すればいつでも入れます。一応入浴の時間帯が2時半から5時と夕食後から八時半くらいまでとなっています。入る順番はその日によって変わります。本人の希望はできる限り聞くように支援しています。ゆったり入っていただけるように時間配分しています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	天気の良い日には布団を干し、シーツを洗い、パジャマは毎日洗濯し快適な寝具で休めるよう支援しています。寂しくて寝付けない時や心配で眠れないときには利用者の部屋で職員と一緒に寝ることもあります。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	その人の能力に合った役割をお願いしています。洗濯畳み、洗濯干し、雑巾がけ、食器洗い、食器拭き、草取り、野菜の下ごしらえなどやっています。終わった後は労いの言葉を掛けるようにしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理でお財布を持っている方が2名いました。買い物に行くときには職員がついていくので支払いの場面は見守っています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や能力に応じて、買い物や、散歩、ドライブに行ったり、食べたいものを聞いて外食したり、花見に行ったり、カラオケに行ったり、お祭り、墓参り、デイサービス、などあらゆるところに出掛けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	河口湖近くの温泉ホテルに日帰りで会席料理と温泉を家族とともに行ってきました。蟹会席料理のお店に外食もしました。家族と出かける支援もしています。	○	国際花園や演奏会などの外出支援を計画中

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その方の能力に応じて電話のやり取りを支援している。手紙のやり取りはご本人の希望がないため実際行っていないが、希望があれば支援します。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、誰でも面会に来ていただけるよう、いつも快く迎えています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修に積極的に参加しどのようなことが身体拘束になるのかを学び、身体拘束をしないケアに努めています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は、中からかけることはできても、外からはかけられない。玄関の鍵は日中は施錠しない。門は施錠してあるが、中からも鍵で開けられるようになっている。自分で開けられる人は開けることができる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の状態に応じて、所在確認や様子を確認している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の様子を見ながら、危険なものの管理をしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	管理者やリーダーはリスク管理の研修をしている。職場内では定期的に危険箇所の点検や、危険な行為がないか、職員全員で点検し改善に努めている。また救急マニュアル・消防マニュアル等を設置しいつでも確認できるようにしている。行方不明については近隣のお店などに利用者の顔を覚えてもらい協力を依頼している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	毎年、消防署の協力により、心肺蘇生法、消火器の使い方、避難訓練を行っている。三角巾を使用した応急手当は施設の看護師が指導を行っている。窒息時の対応についても看護師が指導している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地震災害時の訓練は毎年9月に行っている。炊き出し訓練、応急処置の訓練も行っている。倉庫に飲料水や食料の備蓄をしている。火災訓練も11月に夜間の火災を想定して行い、近隣の消防署や近隣住民の協力を得て行った。	○	地震について、警戒宣言等が発令された時や、地震が突然発生した時など、入居者は何処にいるのが最善か、避難所か、自宅か、施設か？家族の意向も聞きながら、もう一度具体的な災害時の動きを検討していきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒や誤嚥のリスクがある利用者の家族には、危険防止のために生活を抑圧しないような方法で対応するが、万が一のこともありうると説明している。救急時の対応などには十分努力するが、ある程度そういった事態になることも承知していただきたいと説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	異変があったときには直ぐにバイタルチェックをし、看護師に状態報告をします。看護師の指示が職員全員に伝わるよう申し送りをノートに書いて送ります。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はいつでも確認できるように個別にファイルしてあります。用法や用量に関しても医師の指示通りセッティングできるように看護師から指導を受け介護職もできるようになっています。降圧剤や糖尿病の薬など病状に応じて薬の調整が必要なときには、看護師の指示の下調整します。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況をチェックしている。便秘傾向の方には下剤の調整や浣腸を看護師の指導の下行っています。日頃は野菜の繊維をおおく取れるような献立をおおくしたり、水分をしっかり取れるよう支援したり、適度な運動を心掛けています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨き支援をしている。利用者のできる状況にあわせて介助している。口内炎や歯肉炎がないか時々チェックしている。ポリドントは週1回行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスが取れる献立になるよう、栄養士から栄養の指導をうけました。材料の種類をおおしくバランスが取れるように気を配ります。量はその人の状態や希望、運動量にあわせて加減しています。水分も気温や入浴後などの状況に合わせて十分確保できるように支援しています。体重のチェックもしています。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防のマニュアルがあり、看護師が中心になって流行時には対応している。インフルエンザの予防接種も利用者全員行い、今年にはインフルエンザはひとりもかからなかった。ノロウイルスも感染はなかった。外出から帰ったら直ぐに手洗とうがいをし毎食時の手洗いを励行している。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週1回は冷蔵庫の清掃をしている。まな板や布巾は毎日漂白剤につけている。生物は買い物について来たその日のうちに食べるようにしている。利用者、職員とも台所に入るときにはしっかり手洗いしている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	門は正面と裏門と2箇所あり、家族やなじみの人は裏の門の鍵を開けて自由に入ってこれるよう工夫している。玄関スロープがあり車椅子のかたも安心して駐車場まで出ることができる。裏の門には両方にも手すりのついた階段があり安心して駐車場まで出ることができる。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や階段には夜電気を落としても、人を感知して点灯する照明器具を使用している。玄関周囲には季節の花や季節感のある飾りをしている。またリビングには外出時に取った写真を掲示し、利用者や家族がいつでも見れるようにしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では利用者同士の間人間関係に配慮した居場所の提供を職員が仲介しながら、思い思いに過ごせるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を持ってきたり、嫁入り道具の古いタンスを持ってきたり、家で使っていたコタツや家族の写真など使い慣れたものや懐かしいものなどを持ってきたりしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計、湿度計で空調のチェックを行い、乾燥しているときには加湿器を、湿気の多い日には除湿を適宜行っている。温度調節もエアコンで調整している。換気は換気扇による24時間換気その他、適宜窓をあけ換気している。		
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段や廊下には手すりがついている。洗面台は車椅子の方も使用できるタイプになっている。家全体がにこじんまりした空間なので、家具などにつかまりながらの移動がしやすくなっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の部屋が分かるように各部屋に名前を貼っている。掃除道具の場所も一箇所に置き場所を決め、自分で出せるようにしている。靴箱も名前を貼り、自分で靴を出して履けるようにしている。トイレは大きな字で便所と表示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭があります。そこには花壇があり、花や、春には野菜の苗を植えたりして利用者さんと一緒に手入れします。収穫も利用者さんにしていただきます。イチジクやさくらんぼレモン、ゆずの木が植えてあります。芝生の庭でテーブルを広げお茶を飲んだり、食事をしたりします。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ケアの質を向上させるために、介護支援専門員や介護福祉士等の資格取得を事業所が支援している。現在介護福祉士8名、介護支援専門員4名が常勤で勤務している。また、正看護師が2名常勤でいるため、医療的な処置のある方でも必要とされれば、できる限りサービスを提供する努力をしている。ホームでの看取りは2例経験している。ご家族とともに安らかな最期を見送ることができ、ご家族も職員も心が満たされた感じでした。今後も最期まで責任を持ってお世話させていただけるよう努力して行きたいと思っております。